



## Q 米国の景気拡大はいつまで続くの？ (1)

**A** 長短金利差から判断すると、米国経済の拡大局面はしばらく続く可能性が高いと見られます。

- 通常、長期金利は先行きの景気拡大に伴うインフレや利上げなどの期待を織り込むことから、短期金利を上回ります。ところが、景気の拡大が続き金融引き締め局面に入ると、短期金利がより上昇するため、長短の金利差は縮小します。
- 米国の景気が堅調に推移していることから、今後は利上げが予想されます。もっとも、インフレ率が低い水準で落ち着いているため、利上げのペースは緩やかなものにとどまると見られます。長期金利への影響も、限定的と考えられます。
- これがさらに進むと、短期金利が長期金利を上回るようになります。過去のケースでは、景気後退の前に短期金利が長期金利を上回りました。
- 足元の長期金利が短期金利を1%近く上回っていることを合わせて考えると、米国景気の拡大はしばらく続くと考えられます。

【米国債の長短金利差の推移（10年国債利回り－1年国債利回り）】



(注) データは1955年1月～2017年10月。但し、2017年10月は16日までの平均。利回りは月中平均。網掛は景気後退期。  
(出所) 米連邦準備制度理事会 (FRB) のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。